

2022. 1. 9. 主日礼拝説教  
聖書：マルコによる福音書5章35～43節  
『信じ続けることの大切さ』

本日は一冊の絵本を紹介します。有名な「百万回生きた猫」と同じ作者の佐野洋子さんの「空飛ぶライオン」という作品です。

むかし、あるところに、金色のたてがみを持つライオンが暮らしていました。ところが、ある日、猫たちがやって来てさんざんライオンを誉めそやかすのです。ライオンはうれしくなって「ウオーツ」と叫んで空を飛び、シマウマを獲ってきて猫たちのために料理をしてやりました。猫たちは大喜びしてますますライオンを誉め讃えます。ところが味をしめた猫たちはそれからしょっちゅうやって来るのです。そのたびにライオンは同じことを繰り返しました。とうとうある晩、ライオンはひとりで「疲れた・・・」といってさめざめと泣きました。次の日、いつものように猫たちにせつつかれて空を飛ぼうとしたライオンはそのまま動かなくなり、とうとう石になってしまいました。

それから長い長い時が経ちました。ある時、一匹の子猫が石のライオンの前でポツリと言いました。「ライオンは疲れたんだね」と。するとライオンの体は元の金色のライオンにもどると、昔のように「ウオーツ」と唸って空へ駆け上って行きました・・・。

この物語は「猫たちはひどいヤツだ」とか「ライオンはもっとハッキリ言えばいいのに」とかいうことではないでしょう。実は老いも若きも、大人も子どもも、人が人と生きて行くということはこういうことなんじゃないかなと改めて気づかされるような思いがいたします。うれしかったり、背伸びしたり、そのために疲れ果てたり・・・、そんなことを繰り返しながら、わたしたちはゆっくりと年をとってゆくのでしょうか。しかし、一言のいたわりの言葉、何気ない共感の言葉に彼は甦るのです。

本日の聖書の箇所は、「子どもが死にそうだ」という知らせが21節から描かれ、25節以下の「イエスの服に触れる女」の物語を挟んで、もう一度35節から話の続きが始まります。しかし、ここではすでに「子どもは死んだ」という物語に

変わってしまっているのです。ヤイロの家の人にはもう来て頂かなくても結構ですと言っているのに、イエスは「ただ信じなさい」と言われて、その子を生き返らせるという物語です。

「ただ信じなさい」という言葉は、継続的行為の命令文です。徹底して「信じ続けなさい」という意味なのです。私たちは物事を筋道通り順番に積み重ねることが「信じる」として考えてしまいます。しかしそうではなく、まず「信じる」という結果を最初に持ってきて逆の順番を辿ってゆく—これが聖書の言う「信じる」という順番なのです。つまり、最初にイエスの十字架の死と復活があり、そこから私たちの「現在」の日常へと帰されて行くのです。

例えば、老いることを否定的に感じる方もおおくいるでしょう。なぜ高齢の方々を大切にしなければならないのかという声もあります。それは高齢の方々が弱さや衰えの中で、そうでない若い私たちが毎日の生活の中で見落としている、あるいは見ようもしない人間にとって一番大切なもの、つまり人間が信じなければならないものが、思いやりやいたわりという愛であることを、ただ静かに示してられるからなのでしょう。そして同じ夢を見るようにと黙ったまま全ての人に問いかけているからなのです。